

《そう合問題12》
もんだい

いろいろなしゅるいの文章問題をといてみよう。問題を
とくときは、本文をよく読み、内ようをしつかり理かいす
ることが大切です。

【例題】

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

ハルヒは、友だちのマイの家に遊びに来ています。マイ
のお母さんが、おやつにおかしを出してくれました。

「このおかしは、お父さんが、仕事で東京に行ったときの、
おみやげなの。いっしょに食べよう。」

と、マイ。

箱に入ったおかしは、一こずつ、ふくろに入っています。

「うわあ、ありがとう。」

「二人で、なかよく分けてね。そうだ。せっかくだから、
算数の練習をしようか。おかしが、十四こあります。こ
れを、ハルヒさんと、マイの二人で分けたら、一人分は
いくつ。」

マイのお母さんが言いました。

「お母さん、それはかんたん。一人、七こずつでしょう。」

と、マイ。

「よくできました。じゃあ、次に、わたしもいれて、三人

で分けてみようか。」

「うーん。三人で分けると、わりきれないなあ。あまりが
出るはず。」

と、マイが言いました。

「三人だと、一人四こずつで、()こ、あまるよ。」

と、ハルヒが答えました。

(1) おやつのおかしは、だれのお父さんが、どのような
きに、買ってきたものですか。

(2) () にあてはまる数を、漢数字で答えなさい。

【答え】

(1) だれのお父さん ↓ マイ

どのようなとき ↓ 仕事で東京に行ったとき

(2) 二

【かいせつ】

(1) 本文に、「このおかしは、お父さんが、仕事で東京に行っ
たときの、おみやげなの。いっしょに食べよう。」とある。

(2) 全部で十四このおかしを、三人で分けたときの、あま
りを考える。

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

ハルヒは、友だちのマイの家に遊びに来ています。

「ねえ、お母さん。おなかですいたから、おかしが食べた
いなあ。」

と、マイが言いました。

「そうね。じゃあ、お茶を入れるわね。おやつは、お父さ
んが仕事で東京へ行ったときのおみやげでいいかしら。」
「うん。」

マイのお母さんは、箱を持ってきました。おかしは、一
こずつ、ふくろに入っています。

「ここで、問題よ。今、おかしは二十五こあります。これ
を二人で分けると、一人分は、なんこになるかしら。」

と、マイのお母さんは、二人に聞きました。

「うーん。二十五は、二でわれないね。」

と、マイ。

「うん。あまりが出ると思う。」

と、ハルヒは言いました。

「お母さんなら、はじめにおかしを、二十こと五こに分け
るかな。」

「えっ、どうして。」

と、マイ。

「二十五こっていうことは、十こが二つでしょう。二人で
十こずつ分けられるじゃない。その後で、のこりの五こを、

二人で分ければいいのよ。」

と、マイのお母さんは言いました。

「そうか。五こなら、分けるのがかんたんだね。」
と、マイ。

「そう。一人二こずつで、(A)こあまるから、さっき
の十こと合わせて、一人分はなんこになるの。」

「(B)こ。」

マイとハルヒは、声をそろえて答えました。

(一) — 線部「おかし」とありますが、これは、どんなおかし
ですか。() にあてはまる言葉を、本文中からぬき
出そう。

マイの (ア) が東京で買ってきたもので、(イ)、
ふくろに入っている。

①	ア

(2) 二十五このおかしを、二人で分けると、あまりが出る
と言ったのは、だれですか。

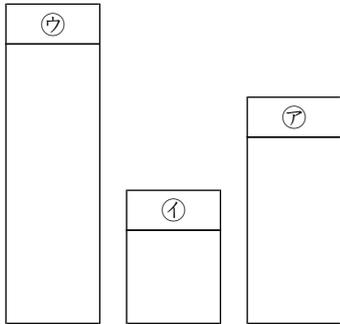
--

(3) 二十五この、おかしを分けるとき、お母さんの考え方、次のようにまとめました。()にあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。なお、(ア)と(イ)には、漢数字かんすうじが入ります。

二十五このおかしがある。

(ア) こと、(イ) こに分ける。

はじめに、(ア)こを、二人で分けてから、(ウ)の五こを、二人で分ければいい。



(4) 本文中の (A) と (B) に、あてはまる漢数字
を答えなさい。

B	A

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

ハルヒは、マイの家に遊びに来ています。マイのお父さんのおみやげの、二十五このおかしを、二人で分けたりどうなるかを考えた後、おやつを食べ始めました。

「あ、これ。サクサクして、とってもおいしい。」

と、ハルヒ。

「でしよう。よかった。」

と、マイ。

「幸せは、おすそ分けしないとね。」

と、マイのお母さん。

「おすそ分けって、何のこと。」

「他の人にも分けて、みんなで楽しむっていうことよ。」

と、マイのお母さんが言いました。

「おすそ分けって、すてきな言葉だね。一人で食べたらず、たくさん食べられるけど、ちよつときみしいもんね。たくさんのお友だちに分けて、みんながよろこんでくれるほうが、やっぱり、楽しいよね。でも、たくさんのお友だちに分けると、自分の食べられる分がへるから、ちよつと、ざんねんかも……。」

と、マイ。

「じゃあ今度、お父さんに、たくさん入っているのを、買ってきてもらおうね。それで、お友だちをいっぱい連れてきたらどう。」

と、マイのお母さん。

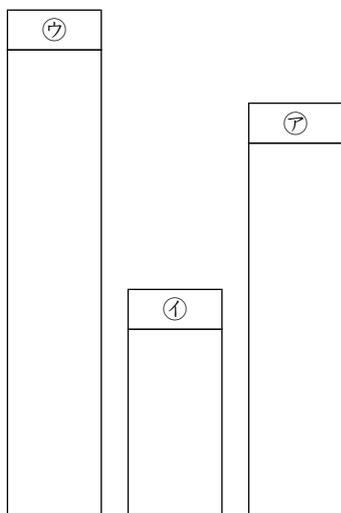
「あ、その中に、ぜったいわたしも入れてくださいね。」と、ハルヒ。

「あはは。ハルヒ、もちろん、いいよ。」

と、マイはわらいながら言いました。

(一) ハルヒとマイは、おやつを食べる前に、どんなことを考えていましたか。() にあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

マイのお父さんのおみやげの、(ア)のおかしを、(イ)で分けたら、(ウ)ということ。



(2) —線部「おすそ分け」について、次の二つの問いに答えなさい。

A これは、どのようにすることですか。空らんにあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

	にも分けて、

楽しむということ。

B マイは、「おすそ分け」について、どう思いましたか。空らんにあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

	の分が				
		でも、	たくさん	の友だち	に分けると、
			くれる	ほうが、	

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

ハルヒは、友だちのマイの家に遊びに来ています。

「ねえ、お母さん。おなかですいたから、おかしが食べた
いなあ。」

と、マイが言いました。

「そうね。じゃあ、お茶を入れるわね。おやつは、お父さ
んが仕事で東京へ行ったときのおみやげでいいかしら。」
「うん。」

マイのお母さんは、箱を持ってきました。おかしは、一
こずつ、ふくろに入っています。

「ここで、問題よ。今、おかしは二十五こあります。これ
を二人で分けると、一人分は、なんこになるかしら。」

と、マイのお母さんは、二人に聞きました。

「うーん。二十五は、二でわれないね。」

と、マイ。

「うん。あまりが出ると思う。」

と、ハルヒは言いました。

「お母さんなら、はじめにおかしを、二十こと五こに分け
るかな。」

「えっ、どうして。」

と、マイ。

「二十五こっていうことは、十こが二つでしょう。二人で
十こずつ分けられるじゃない。その後で、のこりの五こを、

二人で分ければいいのよ。」

と、マイのお母さんは言いました。

「そうか。五こなら、分けるのがかんたんだね。」

と、マイ。

「そう。一人二こずつで、一こあまるから、さっきの

(A) こと合わせて、一人分はなんこになるの。」

(B) こ。」

マイとハルヒは、声をそろえて答えました。

(一) —線部「おかし」とありますが、これは、どんなおかし
ですか。空らんにあてはまる言葉を、本文中からぬき出
そう。

マイの

へ行ったときの	が、仕事で
---------	-------

(2) 二十五このおかしを、二人で分けると、あまりが出る
と言ったのは、だれですか。

(3) 二十五このおかしを、二人で分けるとき、お母さん
の考え方を、次のア～エからえらぼう。

- ア 二十五を、五でわって考える。
- イ 二十五を、二十と五に分けて考える。
- ウ 二十五を、十二と十三に分けて考える。
- エ 二十五を、二でわって考える。

(4) 本文中の (A) と (B) に、あてはまる漢数字
を答えなさい。

B	A

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

ハルヒは、マイの家に遊びに来ています。マイのお父さんのおみやげの、二十五このおかしを、二人で分けたりどうなるかを考えた後、おやつを食べ始めました。

「あ、これ。サクサクして、とってもおいしい。」

と、ハルヒ。

「でしよう。よかった。」

と、マイ。

「幸せは、おすそ分けしないよね。」

と、マイのお母さん。

「おすそ分けて、何のこと。」

「他の人にも分けて、みんなで楽しむっていうことよ。」

と、マイのお母さんが言いました。

「おすそ分けて、すてきな言葉だね。一人で食べたらず、たくさん食べられるけど、ちよつとさみしいもんね。たたくさんの友だちに分けて、みんながよろこんでくれるほうが、やっぱり、楽しいよね。でも、たたくさんの友だちに分けると、自分の食べられる分がへるから、ちよつとざんねんかも……。」

と、マイ。

「じゃあ今度、お父さんに、たたくさん入っているのを、買ってきてもらおうね。それで、友だちをいっぱい連れてきたらどう。」

と、マイのお母さん。

「あ、その中に、ぜったいわたしも入れてくださいね。」と、ハルヒ。

「あはは。ハルヒ、もちろん、いいよ。」

と、マイはわらいながら言いました。

(一) 「おすそ分け」について、次の二つの問いに答えなさい。

A この話をしたのは、だれですか。

--

B これは、どのようにすることですか。() にあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

(ア) ()にも分けて、みんなで(イ)ということ。

①	
---	--

②	
---	--

(2) マイは、「おすそ分け」について、どう思いましたか。
() にはあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

・楽しいと思うこと

(ア) () に分けて、みんなが (イ) () くれること。

・ごんねんだと思うこと

(ア) () に分けると、(ウ) () の分が (エ) () こと。

エ	ウ	イ	ア
---	---	---	---



次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

ハルヒは、友だちのマイの家に遊びに来て、二人でおかしを食べています。マイのお父さんが、仕事で東京へ行ったときのおみやげを、マイのお母さんが出してくれたのです。

「このおかし、とってもおいしいね。」
と、ハルヒは言いました。

「うん。わたしも好きなんだ。ねえ、お母さん。来週の日曜日に、友だちとピクニックに行くでしょ。このおかし、持っていきたいんだけど。」
と、マイ。

「いいわよ。何人で行くの。」

マイのお母さんが、二人にジュースをわたしながら、マイに聞きました。

「わたしとハルヒを入れて、十二人かな。」

「そんなにたくさんいるなら、五十こ入りのほうを、持っていくなさいね。」

と、マイのお母さんが言いました。

「ありがとう。十二人だと、一人、なんこずつ食べられるかな。一人一こずつ分けると、たくさんあまるから、一より大きな数になるはずだね。」

と、マイが言いました。

「五十このおかしを、十人に分けると、一人五こずつにな

るね。でも、ピクニックに行くのは十二人だから、一人分は、五より小さい数になるね。」

と、ハルヒが言いました。

「そうね。そうすると、一人がもらえるおかしの数は、

□のうち、どれかになるわね。」

と、マイのお母さん。

「うーん。お母さん、もう少し、分かりやすくならないかな。」
と、マイ。

「それなら、十二人を、二人一組にして考えてみるのは、どうかしら。」

マイのお母さんの言葉を聞いたマイは、「十二人を、二人一組に……。」と、つぶやきました。そして、ぽん、と手を打って、マイが言いました。

「そうすると、六組できるね。それなら九九が使える。

五十にいちばん近いのは、六、八、四十八。」

「四十八だから、一組に八こずつ分けられて、二あまるね。」
と、ハルヒが言うのと、マイはうなずきました。

「そうだね。でも、二人一組だから、一人分は、四こだね。あまった二こは、お母さんにあげるね。」



(1) 五十このおかしを、一人一こずつ分けると考えたのは、
だれですか。

(2) に入る漢数字を、全て答えなさい。

(3) マイのお母さんは、五十このおかしを分けるとき、ど
のようにすれば分かりやすいと考えましたか。空らん
あてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

にして考える。

人を、

(4) なぜ、(3)のお母さんの考えはいいと、マイは思った
のですか。空らんにあてはまる言葉を、本文中からぬき
出そう。

から。

(5) お母さんは、おかしをいくつももらいましたか。漢数字
で答えなさい。

こ



次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

ハルヒは、友だちのマイの家に遊びに来て、二人でおかしを食べています。マイのお父さんが、仕事で東京へ行ったときのおみやげを、マイのお母さんが出してくれたのです。

「このおかし、とってもおいしいね。」
と、ハルヒは言いました。

「うん。わたしも好きなんだ。ねえ、お母さん。来週の日曜日に、友だちとピクニックに行くでしょ。このおかし、持っていきたいんだけど。」

と、マイ。

「いいわよ。何人で行くの。」

マイのお母さんが、二人にジュースをわたしながら、マイに聞きました。

「わたしとハルヒを入れて、十二人かな。」

「そんなにたくさんいるなら、五十こ入りのほうを、持っていくなさいね。」

と、マイのお母さんが言いました。

「ありがとう。十二人だと、一人、なんこずつ食べられるかな。一人一こずつ分けると、たくさんあまるから、一より大きな数になるはずだね。」

と、マイが言いました。

「五十このおかしを、十人に分けると、一人五こずつにな

るね。でも、ピクニックに行くのは十二人だから、一人分は、五より小さい数になるね。」

と、ハルヒが言いました。

「そうね。そうすると、一人がもらえるおかしの数は、

と、マイのお母さん。

「うーん。お母さん、もう少し、分かりやすくならないかな。」
と、マイ。

「それなら、十二人を、二人一組にして考えてみるのは、どうかしら。」

マイのお母さんの言葉を聞いたマイは、「十二人を、二人一組に……。」と、つぶやきました。そして、ぽん、と手を打って、マイが言いました。

「そうすると、**B**。それなら九九が使える。五十にいちばん近いのは、六、八、四十八。」

「四十八だから、一組に八こずつ分けられて、二あまるね。」
と、ハルヒが言うと、マイはうなずきました。

「そうだね。でも、二人一組だから、一人分は、四こだね。あまった二こは、お母さんにあげるね。」



(1) マイとハルヒは、来週の日曜日に、何をしますか。空らんにあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

に	
	と

(2) A に入る漢数字を、全て答えなさい。

--

(3) マイのお母さんは、五十このおかしを分けるとき、どのようにすれば分かりやすいと考えましたか。空らんにあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

人を、

にして考える。

(4) B にあてはまる言葉を、次のア～エからえらぼう。

- ア 十組できるね。
- イ 三組できるね。
- ウ 六組できるね。
- エ 四組できるね。

(5) 五十このおかしを、十二人で分けると、一人分は、なんこになりますか。漢数字で答えなさい。

こ

--